



乃木小だより

～ かしこく つよく やさしい子 ～

～まつえ湖南学園～
松江市立乃木小学校
令和6年2月26日
(文責) 校長 野津

ネット社会の進展で、私たちの生活はいろいろな分野で便利になってきました。そしてこの便利な社会に小学生が参加することも今では珍しくなくなってきました。しかし、一歩間違うと思いがけない事故や事件に巻き込まれてしまいます。特に情報量の少ない子どもたちは心配です。子どもたちが日常の生活リズムを整え、ゲームやスマホ、テレビなどのメディアといかに付き合っていくかは、本校に限らず今の日本の社会にとって大きな課題の一つです。

また、将来を担う子どもたちの「学力育成」を図ることは、まさに学校教育の真髄とも言えます。「授業の質の充実」「家庭学習の充実」「地域に関わる学習の充実」を柱とした「しまねの学力育成プロジェクト事業」の研究校として、本校は松江市の指定を受け取組を推進しています。関係機関より指導を受けながらどの学年も授業研究を進め、市内の各校に向けて授業を公開したり実践事例を発信したりしながら日頃の授業に工夫を重ねています。

今回は、この2つの話題について担当者よりお知らせします。

メディアコントロールウィークについて

2月13日から20日まで、メディアコントロールウィークがありました。ご協力ありがとうございました。各ご家庭では、どのように取り組まれましたでしょうか。

ご承知のとおり、メディアコントロールウィークは、本校 PTA、及びまつえ湖南学園（忌部幼・忌部小・湖南中・幼保園のぎ）と連携した取組です。「児童一人一人が自己の健康を保持増進するために、望ましい生活リズムを形成するとともに、様々な情報の中から必要な情報を選択して活用する力を育成すること」を目的としています。世の中の社会スタイルが多様化する中で、各ご家庭での一日の過ごし方もそれぞれかと思いますが、子どもたちの健全育成のために強く意識して進めていきたい部分です。

以下、このたびのメディアコントロールウィークを振り返り寄せられた保護者の方の感想です。

毎回なかなか全部できなかつたので、本人と話し、「3年生最後のメディアコントロールウィークだから全部できるように頑張る」と自分で決め取り組んでいました。休みの日は家にいる時間が多かったので、とてもゲームがしたそうでしたが、外に出て遊んだり本を読んだりして1週間ゲームなしで過ごすことができました。自分で頑張って決めたことができるととても良いメディアコントロールウィークになりました。

現代の子どもたちの周りには、魅力的・刺激的なメディアがあふれています。一概に規制するばかりでなく、どのように接していくか保護者の方と相談したうえで「家での決まり」を作り自分で自分をコントロールしていくことが必要だと考えます。学校でも機会をとらえながら引き続きメディア教育に取り組んでいきます。

≪文責 生徒指導主任 伊原≫

仲間とともに自ら学び、自分の考えを表現できる乃木っ子の育成に向けて ～キーワードは「対話」で学びを深める！～

本校では、子どもたちの日々の学びがより充実し、深まるように、よりよい授業づくりに向けて努力を重ねているところです。学びの主役を子どもと捉え、「問題を解決したい！」「理由を明らかにしたい！」という学びへの主体的な姿や「話し合って納得した」「できるようになった！」という学びを深めていく姿を目指しています。

そのために大切にしているのが対話です。日々の授業の中では、自分一人の考えで結論付けず、友達との対話を通して、問題解決することを意識しています。対話を取り入れることのよさには以下のようなものがあると考えています。



- 自分が考えた理由を伝え合うことで学習内容の意味理解をより深めることができる。
- 自分の考えとの共通点や差異点に注目することで、自分の考えにさらに自信をつけたり、よりよい考えを再考したりすることができる。
- 友達との学びを通して、集団で学ぶよさや、友達と関わることの心地よさを感じることができる。

もちろん、その他にも様々ありますが、日々の授業の中での対話を通して、子どもたち一人一人に「自分の学びが深まることの充実感」や「友達存在による安心感」を感じてほしいと思っています。それが次の学びへの原動力の一つになると考えているからです。

これまで述べたことが実現できるよう、本校では①「子どもが考えたいような課題提示の工夫」、②「様々な方法で自分の考えを表現できる工夫」などを心がけていますが、ここでは、②に関わるタブレットを効果的に活用した授業について紹介します。

例えば、理科の実験では、グループごとに実験の様子を動画に撮ることをしています。撮影したものを見合いながら対話することで、結果の共有や考察がよりしやすくなります。社会科では、学習内容に応じて、参考となる資料を子どもたち一人一人のタブレット上に送信することもしています。手元ではっきり見られることや拡大ができることで、より資料の細部まで読み取ることができます。

また、タブレットを活用すると、それぞれが考えたことを短時間で一括集約できるので、学級全体で対話をする際にも効果的です。

もちろん、プリントを利用して直接書き込む方が、対話が充実し、学びが深まることもたくさんあります。

今後も、対話を大切にしながら、子どもの「学びたい！」や「わかったぞ！」という声をたくさん引き出せるような授業づくりを工夫していきたいと思えます。

